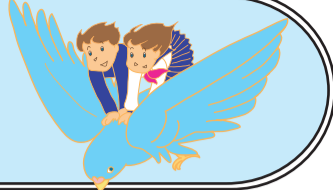


# 君とつばさ



平成28年10月10日  
発行・公益財団法人 交通遺児育英会  
〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-1  
(電話) 03(3556)0771  
(HP) http://www.kotsuiji.com

©交通遺児育英会

## つどい 交流盛んに

### 70家族147人参加

# 励まし合い心の糧に

交通遺児育英会は8月20、21日、都内で、「高校奨学生と保護者のつどい」を開催し、70家族147人が参加した。毎年参加できる形にして3年目、小・中学生もグループワークゲームに参加するようにして2年目。今年はACジャパンの支援キャンペーンで育英会CMの高校生役を演じる山口まゆさんもサプライズで参加した。

(関連記事2面)

「夢を諦めないで」 山口さん  
「つどい」開会の冒頭 ヒントをもらい、勇気づけられ、育英会の菅谷定彦理事長が「つどいで、いいように、できる限りのサ刺激を受けて、考える ポートを開きます」と



菅谷定彦理事長



山口まゆさん



ビー玉送りゲームに山口さんも参加(左から3人目)



語学研修で米国ビバリーヒルズを訪問

アメリカ、オーストラリアでの海外語学研修に参加した高校生33人が、8月中旬から下旬にかけてアフリカ、オーストラリアで無事帰国した。米国研修は31人が参加、3年目となるカリフォルニア州ミッション・ピエホで、約3週間現地でホームステイして英語を学んだ。現地でのカリキュラムは、午前中は英語の授業、研修生は積極的にジェスチャー交じりの英語でコミュニケーションをとった。

## 語学研修生33人米豪から帰国

あいつつ。 続いて、ACジャパンの育英会CMが大スクリーンに流れる中、高校生役を演じる山口まゆさんが登壇する演出に会場はわき、拍手で迎えた。山口さんは「ご覧いた

だいたものは、先月(7月)から放送されている2作目です。CMに出させていただき、交通遺児育英会の奨学金制度がもっと広まってほしいと思っていました。皆さん、夢を諦めないでください。わ



保護者懇談会

たしも勉強と仕事の両方をがんばり、夢に向かって努力していきます」とあいさつした。この後、保護者と先輩奨学生による講演が行われ、「つどい」前半のしめくりは、ゲスト講師が、WEBラーニングについて紹介した。「つどい」後半は、高奨生は別の広間に移動し、9人ずつ8班に分かれてグループワークゲームに挑んだ。今年は高奨生60人、小・中学生12人が参加し、山口さんも途中参加した。

講師スタッフが先導する形で、じゃんけんポールを手渡すゲームで、初対面同士を打ち解かせ、次いで、ビー玉やボード、ひも、おはじきを使って、本格的な班別の対抗戦に突入した。ゲ

ムの進行とともに会場は大きな声飛び交い、冷房が利かなくなるほど熱気に包まれた。山口さんもすぐに打ち解け、2時間弱のゲームを楽しんだ。終了後は参加者との記念撮影に快く応じていた。一方、保護者は7、8人ずつ10グループに分かれ、保護者懇談会を行った。育英会職員が進行役を務め、参加者からは育英会への要望や問題指摘

今年も「つどい」の一部として、希望する6人の保護者と高校奨学生同伴の3家族の個別相談に当に受けられるか、「進学の経済的負担」など。相談内容は、「入学金の早期納付について」「学生寮を利用できない地域への進学で、家賃補助は本当に受けられるか」「進学の経済的負担」など。高校3年時に大学や専修

改善意見など多く寄せられた。同じ境遇同士の語り合いは、「つらいのは自分だけじゃないんだ」「がんばれる、また明日から」「勇気がもらえる」などの意見が多かった。この後は、高奨生、保護者が二つの広間に分かれ、グループワークゲームや保護者懇談会と同じグループでテーブルを囲む、夕食を兼ねた懇親会。保護者のテーブルでは懇談会で話し足りない分を補うように話に花が咲き、終了時間に名残惜しそうに各部屋に戻る姿もあった。2日目は希望者向けに心塾見学会が行われ、家族29人が参加した。

## 奨学生募集中

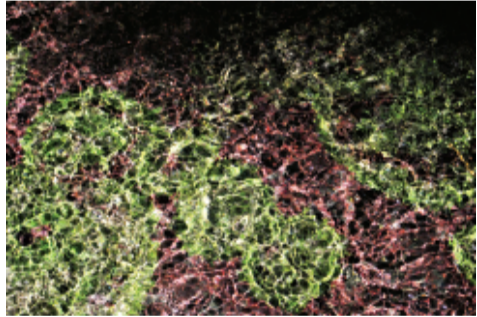
## 9家族が個別相談会を希望

今年も「つどい」の一部として、希望する6人の保護者と高校奨学生同伴の3家族の個別相談に当に受けられるか、「進学の経済的負担」など。相談内容は、「入学金の早期納付について」「学生寮を利用できない地域への進学で、家賃補助は本当に受けられるか」「進学の経済的負担」など。高校3年時に大学や専修

学校に合格したら、入学一時金の前倒し貸与として進学準備金制度があることや、学生寮を利用できない地域に進学する場合の家賃補助の申請方法について職員が詳しく説明した。また、上級校へ進学する場合の返還猶予制度や、無理のない返還計画について助言した。

28年度上期家賃補助9万円給付 育英会は8月19日、平成28年度上期の家賃補助の修学支援金9万円(6か月分)を給付した。給付対象となる奨学生は208人。内訳は大学生160人、専修・各種学校生30人、大学院生18人。

## 秋色



カメラ：Nikon D7100

東京造形大学 3年

寺内 遥奈

※お断り 3面「もう読んだ。」休みました。

「神様は私たちに、成功してほしいなんて思っています。ただ、挑戦することを望んでいるだけ」(テレサ)。平和を願う連帯が試されている。



マザー・テレサがカトリック教会の「聖人」に認定された▼「この世で最大の不幸は戦争や貧困などではありません。人から見放され、『自分は誰からも必要とされていない』と感じたとき、誰からも望まれていないと感じる病は、愛情のこもった手あついで話さなければいけない。」「テレサの言葉だ(『マザー・テレサ』シャロー・ト・クレイ著 偕成社)。

本紙は、宝くじの社会貢献広報事業として

助成を受け作成されたものです。



# 講演

## 高校奨学生と保護者のつどい

「高校奨学生と保護者のつどい」の講演で、心塾東京寮生の駒澤大学4年の宮澤直也さん(22)と保護者の中本悦子さん(49)が、それぞれ父や夫を亡くした体験を語ってくれた。

### 周りへの感謝、出会いを大切に



宮澤直也さん

「3歳のときに父を亡くし、父の思い出は何一つない」という宮澤さんは、小学校低学年のとき、原因不明の頭痛やめまいに悩まされた。複数の大きな病院で検査をしても、「異常なし」と診断され、原因がつかめない。「母の推察では、学校で友人が父親の話をしているのを聞いて、少年野球のチームメイトの父親が多く集まっているのを見て、『なぜ僕だけ父親がいらないんだろう』と考え、無意識にストレス



講演に聞き入る高奨生と保護者

「でも、仲間と一緒に汗や涙を流したことは貴重な思い出」という。就職活動の面接では、ある社長に「人生は成長か成功しかない」と言われた。失敗をそのままにしてしまえばそれで終わるが、成長だと捉えたら失敗がプラスになる。大きな成長につながるという。「その社長の言葉で、新



高奨生の懇親会



保護者の懇親会

しい考えを持つことができ、感謝する。最後に、高奨生に「周りと大切にしてほしい」とメッセージを送った。

「わが家は明るい母子家庭」  
帯が鳴り、「事故だ」と直感したという。搬送先の病院は次女が生まれたところで、道筋は知っているはずなのに、迷って3時間以上車を走らせた。だが、「すでに処置室で夫は遺体となっていました」と、当時をいまのことのように思い出し、語る。



中本悦子さん

どんなときでも朝は必ず夫を見送っていた中本さんが、事故当日は前日から高熱を出していた娘2人のことでイライラを募らせ、見送らなかつた。数時間後、中本さんの携

から「相手死亡のため裁判はできなくなつた」との電話があり、相手の妻から「いろいろな重圧に耐えかねて」と謝罪の手紙が来て、自殺だったことを知る。中本さんは気の毒に思う一方で、「自分たちが加害者でなくて良かった」と思った。

「初対面の」と同じ経験をした人の話が聞けてよかった。「自分もがんばろうと励みになった」「自分の母も同じ気持ちだったのかなど思った」「母がどんな気持ちでいままで過ごし、自分たちを育ててきたかを改めて実感できた」との声が目立った。

### 高奨生「ゲームが楽しかった」 参加者の声—アンケートから

保護者「自分の心も癒やされた」  
参加した保護者69人、高奨生63人が寄せたアンケートによると、高奨生

「ゲームが楽しかった」  
全員、保護者の9割が、「つどい」全体について「よかった」と答えた。

保護者からは「感謝の気持ち」が伝わった。「子どもたちの気持ちが聞けた」「自分自身のことでも思い返して、つらいことも乗り越えるパワーをもらった」「自分の心も癒やされた」などの感想が多かった。

高奨生のグループワークゲームについて、高奨生の8割近くは「よかった」と答え、「ゲームが

楽しかった」「初対面の」と同じ経験をした人の話が聞けてよかった。「自分もがんばろうと励みになった」「自分の母も同じ気持ちだったのかなど思った」「母がどんな気持ちでいままで過ごし、自分たちを育ててきたかを改めて実感できた」との声が目立った。

そのほか、自由意見では、「つどいの回数を増やしてほしい」「もう少しゆとり話せる時間があつたらいい」「他のグループの人たちとも仲良くなりたい(高奨生)などの声や、「大学生の語学研修、高校卒業後の保護者のつどい、夏以外のつどいの実施があればよい(保護者)」と要望する声があつた。

のやり取りでは、事故後残された妻子と義母との間に、耐えられない感情的なずれの大きさに気づかされるばかりだった。夫を失った悲しみから心が離れないなかで、義母との心の通わないやりのりに疲れ果てて、中本さんはパニック障害になったそうだ。

「体重は40キロを切り、左耳はほとんど聞こえなくなり、夜は眠れず、ひどい頭痛と悪苦しさを感じました」と振り返る。結局は、弁護士にも相談し、いろいろ手立てを考へてもらったおかげで、義母との間も疎遠になり、徐々に心身の健康も取り戻したという。

「初対面の」と同じ経験をした人の話が聞けてよかった。「自分もがんばろうと励みになった」「自分の母も同じ気持ちだったのかなど思った」「母がどんな気持ちでいままで過ごし、自分たちを育ててきたかを改めて実感できた」との声が目立った。

そのほか、自由意見では、「つどいの回数を増やしてほしい」「もう少しゆとり話せる時間があつたらいい」「他のグループの人たちとも仲良くなりたい(高奨生)などの声や、「大学生の語学研修、高校卒業後の保護者のつどい、夏以外のつどいの実施があればよい(保護者)」と要望する声があつた。

「初対面の」と同じ経験をした人の話が聞けてよかった。「自分もがんばろうと励みになった」「自分の母も同じ気持ちだったのかなど思った」「母がどんな気持ちでいままで過ごし、自分たちを育ててきたかを改めて実感できた」との声が目立った。

そのほか、自由意見では、「つどいの回数を増やしてほしい」「もう少しゆとり話せる時間があつたらいい」「他のグループの人たちとも仲良くなりたい(高奨生)などの声や、「大学生の語学研修、高校卒業後の保護者のつどい、夏以外のつどいの実施があればよい(保護者)」と要望する声があつた。



澤田さんを説明する澤田さん

「つどい」2日目には、希望者14家族29人が東京・日野市の心塾東京寮を視学した。写真1。

分かれて、大ホール、図書室、会議室、食堂、9月に改装となった浴室や洗濯室などの共同施設を視学。続いて、1人部屋の居室を男子、女子に分かれて、保護者と一緒に視学した。

施設見学のあとは、食堂ホールで施設利用の規則や寮生活の心得講座や年間行事、大学や専門学校への通学の事例など、詳しく説明を受けた。

また、心塾関西寮についても、説明を受けた。

### 14家族29人が心塾見学

「つどい」2日目には、希望者14家族29人が東京・日野市の心塾東京寮を視学した。写真1。

分かれて、大ホール、図書室、会議室、食堂、9月に改装となった浴室や洗濯室などの共同施設を視学。続いて、1人部屋の居室を男子、女子に分かれて、保護者と一緒に視学した。

施設見学のあとは、食堂ホールで施設利用の規則や寮生活の心得講座や年間行事、大学や専門学校への通学の事例など、詳しく説明を受けた。

また、心塾関西寮についても、説明を受けた。

### 高校生の声

いつか母と祖母にお小遣いをあげたい  
2年 濱田 健太  
小学2年から野球をやっていた。高校でも野球部に入部。ポジションはピッチャーとセンターで、1年の夏から先輩に交じり公式戦に出場していき、冬の練習のときに次のキャプテンをやってみないかと、言われ、びっくりしました。兄も同じ高校の野球部で副キャプテンをやっていたのです。

英語のスピーチ・コンテストに出場  
3年 吉福 愛哉君  
昨年、米国への語学研修に参加させていただき、ホームステイを通して、お金にはかえられない貴重な価値のある経験をしました。米国ではたくさん、母と祖母にお小遣いをあげている姿を見て、いつか僕も思いました。兄のように自衛隊に入ろうかなと少しだけ考えたのですが、将来の進路についてはまだ決めていません。

高校生の声  
いまは、高校生活が目いっぱい楽しみながら成長していければと思っています。祖母と母、兄の勧めもあって、長崎県

### 将来の夢は警察官になることです

3年 菊地 幸秀  
将来の夢は警察官になることです。特になんか特別な理由はないです。母が生まれる前に交通事故に遭い、足に障害が残ってしまいました。そんなハンデを背負いながらも、パートをしながら進んでいきたいです。学校で

私の4人家族。事故で亡くなった父のことは、生後10か月だった僕には何の記憶もありません。これからも「あしながおじさん」にいつか助けを求めています。感謝の気持ちでいっぱいです。(大阪府)

英語のスピーチ・コンテストに出場  
3年 吉福 愛哉君  
昨年、米国への語学研修に参加させていただき、ホームステイを通して、お金にはかえられない貴重な価値のある経験をしました。米国ではたくさん、母と祖母にお小遣いをあげている姿を見て、いつか僕も思いました。兄のように自衛隊に入ろうかなと少しだけ考えたのですが、将来の進路についてはまだ決めていません。

は早朝の「朝勉」という活動があります。それに参加する一方で、電車通学の時間も英語を覚えるなど、隙間の時間を活用して勉強に励んでいます。最後に、いつも夜遅くまで働いている父、足が不自由ながらも毎日弁当を作ってくれた母、育英会の「あしながおじさん」に、感謝を申し上げます。(東京都)

私の4人家族。事故で亡くなった父のことは、生後10か月だった僕には何の記憶もありません。これからも「あしながおじさん」にいつか助けを求めています。感謝の気持ちでいっぱいです。(大阪府)

英語のスピーチ・コンテストに出場  
3年 吉福 愛哉君  
昨年、米国への語学研修に参加させていただき、ホームステイを通して、お金にはかえられない貴重な価値のある経験をしました。米国ではたくさん、母と祖母にお小遣いをあげている姿を見て、いつか僕も思いました。兄のように自衛隊に入ろうかなと少しだけ考えたのですが、将来の進路についてはまだ決めていません。

# 海外語学研修生レポート 異国文化に触れ、学ぶ

語学研修生33人はこの夏、語学研修に加えて、現地の人との触れ合いなど、かけがえのない体験をした。研修報告書の一部を紹介する。(敬称略、写真は米国研修から)

## アメリカ

### 日米で違うこと

高橋 瑠伊  
アメリカと日本で違うと思ったことが二つあります。一つ目は人の話をしっかりと聞くというところ。二つ目は感謝の言葉をしっかりと伝えることです。



午前中の授業

の生活に生かしていきたくです。

学んだことは二つあります。一つ目は、「思いやりが大切だ」ということ。ここでは「伝える努力」です。分らないことは恥ずかしいことじゃない。わからないことは伝えることが大切だと学びました。二つ目に感じたことは積極性。誰でも仲良くなれる力は、環境ではなく自分が勇気を出さずか出さないかの話。研修はとても大切な練習の場だったと思います。

大戸 璃玖  
夢は海外でエンジニア

僕の将来の夢は海外で働くエンジニアになることです。会話するのはもちろん、工業英語も勉強しなくてはなりません。大変な道のりですが、今回の貴重な体験のおかげで、英語に対するやる気が



キャンプファイア

は、よりいっそう強くなりました。

### ディズニー60周年

柳町 美有

カリフォルニアディズニーは、今年で60周年を迎えたので、このタイミングで行くことができました。のは奇跡だと思います。



ナッツベリーファーム

ナッツベリーファーム  
一番楽しかったのはナッツベリーファーム

UNIONで英語力UP  
山口 涼那  
ホストファミリーと夕食の後には毎日UNIONをしました。とても楽しい時間で、英語を聞く能力と話す能力が鍛えられたと思います。



ホエールウォッチング

ナッツベリーファームという遊園地です。乗り物がとても急で怖かったけど、すごく楽しかったです。

### L-ONEでつながる

中村 颯希

いまもホストファミリーやアメリカの友達とLINEで会話をします。3週間は一生の宝物

### 松本 乃有

異なる世界で異なる言語を使って話し、文化を学ぶことは、これから生きていく上で必ず何かの力になると思います。3週間は一生の宝物です。



ベースボール観戦

### 英語で意思疎通したい

北岡 桓人

これを機会に英単語テストの勉強やラジオの英会話を続けて、少しでも英語を上達させ、次に外国の方と話をするときには意思疎通できるようにしたいです。

### オーストラリア

星野 麻葵

動物園に行くとカンガルーやコアラと触れ合ったり、自然の世界遺産に行くと感動させられたり、本当に一生の宝物を作らせてもらいました。

### 初めての体験ばかり

佐藤 聖

タスマニアデビルに触れ、サッカー観戦やロッククライミングに挑戦するなど、初めての体験ばかりで、とても充実していました。

# CG巧みメルヘンあやなす

## 高3の夏、オープンキャンパスで愛知工業大学(愛知県豊田市)を訪れ、プロジェクトマップを制作

初めて見ると、意中の別の大学をあっさり振り切り、瞬時に進学を決めた。

### 窪田 遥さん

愛知工業大学 情報科学部 2年



掌中のゲーム

た部活のメディア情報研究会に入部し、CG(コンピュータグラフィックス)制作に加わった。動く妖精、魚の気球、森の木、シンデレラなどのパズルを丹念に描画し、子

を上げてくれて、がんばってよかったと思った。次作は、モスクワの国際コ

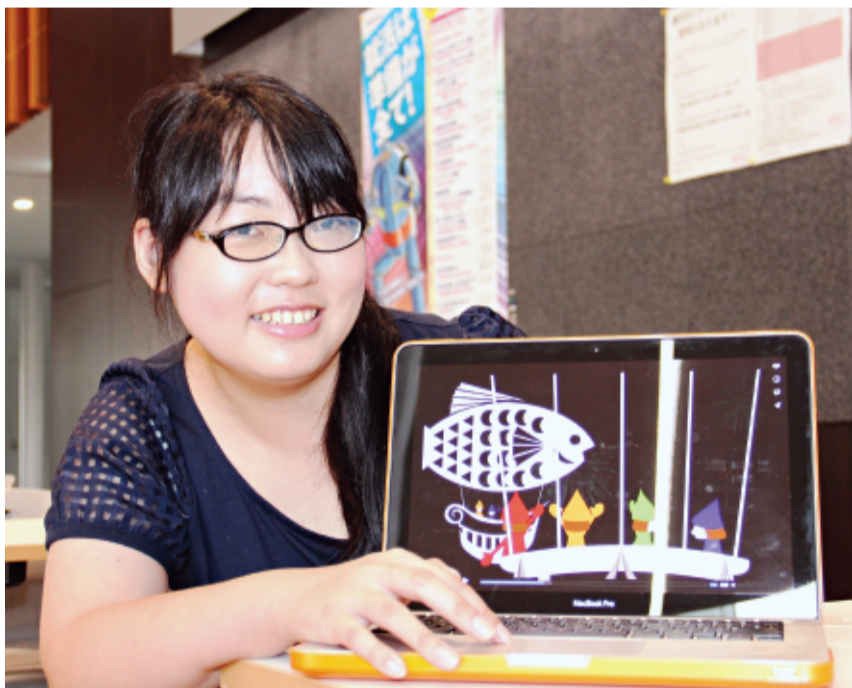
を描いていた。いま音楽ゲームに夢中。スマホ、パソコン、タブレットを使い分け、ゲームの合間には、頻りにツイッターで友だちとつぶやき合う。

「パソコンに触れて絵を描くのが好きだったことが、いまの勉強につながった」

運 転手だった父・真さん(享年27)を、4歳のとき亡くして以来、岐阜県大垣市の祖父父母宅の隣家に、母・仁美さん(47)と暮らす。「大型トラックで、ドイツにランドに連れて行ってもらった」ことが父の思い出。母とよく旅行に出る。京都に行けば、いまも父の遺骨が納められている寺を真っ先に訪ねて手を合わせる。東京なら、コミックマーケット(コミック同人誌の即売会)や、キャラクターイベント巡りに向く。

## はばたく

子ども向けのメルヘン作品を制作(上、パソコン画面)、昨年暮れ名古屋市で上映した(下=窪田さん提供)



た。「決め手は、3つの立方体に映し出された、光が動く感じの、きれいなデジタル模様。自分もこんなものを作りたいと思った」

入学直後、その作品を作った。決める手は、3つの立方体に映し出された、光が動く感じの、きれいなデジタル模様。自分もこんなものを作りたいと思った」

子ども向けのメルヘン作品《3つの立方体の物語》を、仲間と分担して完成させた。「実際に上映したとき、どきどきしながら見守ったら、反応した子どもたちが喜ぶ声

ンテストに出品される。足のけがで欠場した中学の体育祭で、白組のシンボル、白虎を応援旗に描く大役を担い、高校の情報科では、描画ソフトを使いこなしてポスト

## 心塾東京寮 2016サマーキャンプ

心塾東京寮のサマーキャンプが8月9、10日、山梨県北杜市のヴィレッジ白州で行われた。参加塾生は38人。9日午後には到着すると、皆でテント張り。炊飯組は夕食の準備にとりかかる。一方、他のメンバーはキャンプ場の養殖池でマスのつかみ取りに挑戦。それが終

わると、展望台に登り八ヶ岳を望み、スイカ割りに興じる。夕食後は皆でキャンプファイアに花火、ウォーク探検などを楽しんだ。夜半に心塾OB3人が訪問。夜更けまで語り合った。翌10日午前中は後片付け。正午に現地を出発し、午後4時帰還した。



マスのつかみ取り



カレーがうまい



八ヶ岳を展望



キャンプファイア

# ぬくもりの看護へ学び直し

山田尚汰さん(27)は、大学を卒業して介護関係の福祉法人に就職したが、退職して神奈川県立よこはま看護専門学校に入学。看護師を目指す。



「就職していたのに、どうして看護師を目指そうと?」  
「盲腸で1週間入院したのがきっかけです。看護師と患者とのやりとりを見て、人を直接支えられる仕事だと

## 夢まっしぐら

山田尚汰さん

神奈川県立よこはま看護専門学校 看護学科 3年

「看護専門学校での学生生活の再挑戦はどうですか?」  
「学校は定員80人で、年齢層は幅広く、上は40歳前後で自分と年齢が10歳ほど違う学生が集まっています。私のように社会人を経験し再挑戦する人も多いです。看護師資格は年齢制限がないんです。授業は平日9時から16時半まで、

「就職していたのに、どうして看護師を目指そうと?」  
「盲腸で1週間入院したのがきっかけです。看護師と患者とのやりとりを見て、人を直接支えられる仕事だと



看護専門学校の実習教室で

「看護専門学校での学生生活の再挑戦はどうですか?」  
「学校は定員80人で、年齢層は幅広く、上は40歳前後で自分と年齢が10歳ほど違う学生が集まっています。私のように社会人を経験し再挑戦する人も多いです。看護師資格は年齢制限がないんです。授業は平日9時から16時半まで、

「就職していたのに、どうして看護師を目指そうと?」  
「盲腸で1週間入院したのがきっかけです。看護師と患者とのやりとりを見て、人を直接支えられる仕事だと

「3年間の実習は5人1組で1人の先生がつき、親身になって指導してくれます。印象的だったのは50代の女性で肺がんの患者さん。手術して退院後は化学療法を続けていかなければいけなくて、退院指導を担ったのですが、信頼関係が築けて、禁煙継続の意欲がみられました。また

「3年間の実習は5人1組で1人の先生がつき、親身になって指導してくれます。印象的だったのは50代の女性で肺がんの患者さん。手術して退院後は化学療法を続けていかなければいけなくて、退院指導を担ったのですが、信頼関係が築けて、禁煙継続の意欲がみられました。また



これからの進路は決まっていますか?

母が離婚し、尚汰さんは物心ついたときには

「神奈川県内の病院への就職が内定しています。国家試験は来年2月。まだ勉強が続きませんが、周りの仲間とお互い目標が一緒で切磋琢磨してがんばれるから、それが支えになっていきます。夢は切り開いていけるんです」

## オンステージ



オーケストラでは第2バイオリン担当

「各人員が職務への知識技量を増やしていかなければなりません。とくに税制改正期はできるだけ早く住民に周知徹底し不安を解消させることが大事です。世帯主が急に亡くなり、税のことなど何もわからない方

形最上郡戸沢村は、山形新幹線の終点・新庄市から鶴岡街道を酒田市方面に車で20分、人口5000人弱の村で、かつては最上地域と庄内地域を結ぶ水運の要衝の地として栄えた。「最上峡岳ライオン舟下り」の出発点で、出羽山地が連なる最上峡の舟下りが楽しめる。

# 出羽の村興しバイオリニスト



「税務課資料が生活保護受給や健康保険の判断資料になるので責任重大」

田中美代さん(56)は秋田大学を卒業後、就職して最初の2年間は財政課を担当、3年目から税務課に。同部署では住民の固定資産税や相続税、住民税、個人所得税の実務を担当する。村は少子高齢化で税収減、村役場も人員削減があり、職員の労働負担も増えている。

「職場では父が村役場の農業委員会の委員をやっていたので、顔見知りが多く、助かっている部分もあります。とにかくアットホームで仕事がしやすいですね」  
仕事は朝8時半から夕方5時まで。土日もしっかり休める。  
おかげで趣味のバイオリンの練習にも励める。高校時代から習い始めて、いまは酒田フィルハーモニー管弦楽団に所属し、毎週土曜日に酒田市に練習に通う。「年末にはベートーベンの第九を演奏します。年2回大演奏会を開くんですが、介護施設や老人ホームを回ってのチャリティー演奏会にも参加します。地元の祭りではソロでの演奏も。村は人口が減って若者が少ないので、なるべくイベントには積極的に参加することにしていきます。本当に戸沢村で働いてありがたいですね。自然に恵まれた地元が大好きですから」

「父が亡くなったとき、私は大学2年で家を出ていましたが、妹は高校3年の受験期で大変だったと思います。母は残業が多いので、家事はもっぱら妹がしていました。いまは茨城大学のメディア文化コースを出て、東京で念願のテレビ制作会社に働いています。今度は私が実家の家族を助けなければと思います」  
達雄さんはいまも元気で畑と山に出て、わらびを採っては春に出荷する。田中さんも仕事前の早朝や仕事を終えた夕方、そして週末にその作業を手伝う。

# バイリンガル美容師へスマッシュ

## 七井香奈さん

茨城県立下館第二高校2年 バドミントン部

七井香奈さん

七井香奈さん(17)は栃木県真岡市石島の自宅から茨城県筑西市の下館第二高校まで自転車で30分かけて通う。

同校は、創立116年の伝統校で、元々は女学校として創設され、平成5年から男女共学となった。男子300余人、女子500余人の生徒が在籍する学校では、文武両道を掲げ、スポーツが盛んだ。

七井さんはバドミントン部に所属する。部員は男女50人弱。卓球部と剣道部と共有する第2体育館での練習は男女交代で各週3日、週2日はグラウンドでの練習になる。「バドミントンは、トップ



ダブルスの方が好きという七井さん



クラスになると、スマッシュの初速は時速400キロを超えるんですよ。緩急を使い分けてのショットや激しいフットワーク、対戦相手との駆け引き、ダブルスの場合はペアとのコンビネーションなど、パワーや瞬発力に加えて、持久力や高度な技術が要求されるスポーツです。やり始めたら、やみつきになりますね」



中学時代はテニス部に所属していたが、動きの激しさはテニス以上だという。土曜日も部活動がある。隔週で課外授業があるときは午後の練習で、終わる時間は4時だ。

その一方で、土・日を含めた週4日は、夕方5時半から8時まで、真岡市の自宅の近所でスパーのレジ打ちのバイトをしている。「少しでも家計の足しになればと思っ。姉2人も高校

時代は同じバイトをしていますが、おかげで知り合いも多く、面倒を見てくれるので助かっています。始めて10か月ですが、ようやく慣れてきたところですよ」

長姉・玲奈さん(22)は、茨城県土浦市の建設会社に勤務し、アパートを借りて暮らす。次姉・理奈さん(20)は心臓東京寮に在塾し、栄養専門学校に通う。真岡市の実家には自治医科大学病院に事務職として勤務する母・真智子さん(47)と暮らす。

「母より私の方が帰りは遅くなりますね。バイトや部活で疲れて、なかなか勉強ができずにだらけていると、『少しは勉強しなさい』と叱られますが、基本的には、『自分のしたいようにしなさい』と応援してくれる母です。私は子どものころから美容師になるのが夢で、この夏休みに東京・原宿の美容専門学校のオープンキャンパスに参加し、マネキンを使ってヘアのカットを学んできました」

真智子さんと近所に住む祖母・渡邊節子さん(75)の髪を染めたり、編んだりするのが好きという七井さんには、ひそかな夢がある。

4年後に東京オリンピックがありすが、通訳のできる美容師として外国の方のお世話ができればと思っています。将来、海外に派遣されるようなチャンスをつかめれば最高です」

七井さんは高校1年のときに育英会の語学研修で3週間米国に行った。そのときの体験は大きな財産だという。「自ら積極的に行動することがいかに大事かを痛感しました。そのとき、将来は英語関係の仕事に就きたいと思ったのです」

当面の目標は、高校3年間で英語検定2級の資格を取ることだ。「それには英語をもっと勉強しなくては。卒業後は美容の専門学校に行こうと思っています。姉のように心算に入っって通いたいです」

## お母さんの背中

# 客にお茶を供される喜び

岩元朋子さん(45)は北九州市の生命保険会社で保険外交員を始めて2年になる。以前は飲食店のパートを9年ほどしていた。家族は、長女母娘の咲樹さん(22)と璃桜菜さん



(2)に、長男・龍也さん(21)、次女・瑠菜さん(16)の5人暮らし。亡くなったいとこの家を3年前に譲り受けて住んでいる。自宅から車で20分の所に岩元さんの実家があり、父・清水克一さん(69)と母・京子さん(68)が住む。岩元さんは京子さんがろっ骨を骨折して家事ができなくなったので、その手伝いで一時休暇を申請したが、その間に、自分も重度の頸椎ヘルニアで手術が必要と病院で診断され、長期休暇に切り替えた。

「医者診断では長時間のデスクワークや運転など、同じ姿勢を長時間取っているとかなりやすいそうです」この仕事は近所の生保外交員の誘いで始めた。時間の融通が利き、子どもの用事を犠牲にしなくてもいいのがメリットだ。「外交的性格ではないので、初対面でお客さんの懐



「入院について子どもたちは『無理させた』と悔いているようです。岩元さんは休暇中だが、外交員の営業はマイカーで

に入っていくのは大変ですが、何回か通ううちに信頼関係が次第にできて熱いお茶を出してもらえるようになる、うれしいですね。契約してもらったあとのケアが大切です」

「保険の相談のついでに、いつのまにか家族の話題になり、こちらが逆に相談のついでにこちらが立場になることも。職場やお客さんには本当に親切にしてもいい、恵まれていますね」

岩元朋子さん

生命保険外交員(北九州市)

8時30分に出勤し9時朝礼、1時間社内ミーティングのあと、10時に準備をして外交に出る。週平均40件を毎日エリアを決めて訪問する。退社5時で週2日休みがある。ただし、土・日・祝日は仕事だ。13年前、夫・伸吉さんが事故で亡くなったとき(享年32)、瑠菜さんは3歳で咲樹さんと龍也さんは小学生。3人は、自分によりよいことがあると、父の仏前に報告することが習慣になっていた。

龍也さんは小学1年からサッカーを始めて小・中はクラブチーム、高校もサッカーで選んだが、部の方針が合わず退部。失意で学校も中退した。いまは焼き肉屋でバイトしながら、何らかの形でサッカーに関わりたいと模索中。シングルマザーの咲樹さんは寿司屋チエーンの会社で働き、ゆくゆくは正社員になる予定だ。残業が多いので、岩元さんが孫娘の面倒を見る。瑠菜さんはこの夏、育英会の米言語学研修に参加。弓道部に所属し、絵やギター、パソコンのサークル活動も行っている。

「長男はとにかくマイペース。早く自立してもらいたいですね。長女は高校が調理科で本人が本当に望む仕事に就いてがんばってほしい。次女は何でも積極的にチャレンジする性格でいけばいいですね。孫はそれがかわいいですよ。長男がお世話になったサッカーのコーチが『お母さんの育て方は間違っていない。好きなことをさせて自由に考える時間を与えて見守ったのが本人にプラスになっている』と。子どもには何でもやりたいことはさせてきました。途中でダメになっても、無理強いはず、見守ってききました。現時点では答えが出ていないけど、子どもたちに後悔はしてもらいたくないですからね」

